

財務

平成24年度予算編成方針について

Q 「24年度予算編成にあたっての財政の見通しについて」

A 24年度の財政状況は、過去に例のない厳しさというふうに考えている。要因の大きなものとしては税収の落ち込み。基幹をなす固定資産税については地価の下落に加え、来年度は評価替えの年でもあり、増加の要素が全く見られない。また、それ以外の税目についても、長く続く不況の影響や東日本震災の影響により増収が見込めない状況にある。このような状況を合わせる、24年度の歳入は今年度と比べ6%程度減少するのではないかと見込んでいる。

Q 「予算編成の基本方針について」

A 厳しい財政状況にあることから、経常的経費を前年度対比マイナス8%と設定して、事業に充てる財源を確保することとした。新たな財源の確保や事務事業の執行方法の根本的な見直しなどを行い、総合計画の重点事業や喫緊の課題などに対して重点的かつ効率的に配分を行うこととしている。なお、事業化にあたっては、町の行政評価の結果や議員さんや監査委員さんなど第三者の意見に謙虚に耳を傾け、必要性を十分に検討するよう指示をしている。

的確な課税や徴収率の向上による税収の確保、受益者負担の原則に立った使用料、手数料の見直しなどを、歳出の面では、事務事業の見直し、人件費の抑制、施設の閉鎖を含めた維持管理、修繕経費の見直し、補助金の精査、などを、改めて一つひとつ見直して、予算編成にあたっていく。財源の確保については、制度上の工夫による捻出や特殊法人からの助成など今まで縁がなかったものの受け入れなどを調べて行うよう指示をしている。限られた財源を有効に配分して、町民が安心して暮らせる町となるよう、24年度予算を編成したい。

A 財源が限られている状況であることから、歳入の面では、

Q 「予算編成上の留意点」

財源が限られている状況であることから、歳入の面では、

観光

箱根町の観光に対する取り組みについて

Q 「湿生花園とススキ草原を結ぶ木道の設置」

A 施工費や維持管理費の問題、特別保護区域ということもあり、難しい。現在、県が県道75号線沿いに歩道を整備しており、箱根湿生花園から美術館等への回遊性が高くなり、観光客の安全性も確保されると考えられる。

A 森のふれあい館は、開館当初より、「展示物を見る」、「木や木の実で工作」、「自然に触れる」の3本立てで運営を行っている。

Q 「関所と関連施設の活性化」

A 地元の老人会による施設内での解説。昨年から、「箱根関所特別公開ガイドツアー」を開催。さらに、江戸時代の衣装の着装体験。周辺施設との連携は、船泊関連2社と契約を結び、往復乗船券などの提示により、観覧料を割引。近隣の商店と、箱根町景観研究会などを通じて意見交換を行い、地域活性化につながる催しや活動を研究している。

A 認定を目指している「箱根ジオパーク」に対応する施設としての役割も考慮し、「観光施設」と「学習施設」、「ジオパークのネットワークの拠点」という多面的な要素をもつ施設を計画している。

Q 「箱根キャラクターの作成」

A 「ご当地キャラクター」が観光の振興等に貢献していることは理解をしているが、本町に関しては、新たなキャラクターを作るのではなく、もともとある素晴らしい素材を十分に活かして箱根のPRにつなげていくことがより効果的であり、その方法論や戦略について検討していきたい。

Q 「森のふれあい館を体験型施設とすること」

森のふれあい館を体験型施設とすること

Q 「(仮称)箱根火山学習センターの在り方」

(仮称)箱根火山学習センターの在り方